

第 1 回

円山動物園リスタート委員会

会 議 録

第1回 円山動物園リスタート委員会

- 1 日 時 平成18年7月4日(火) 13:30から15:30
15:45から園内視察
- 2 場 所 円山動物園内 動物園プラザ
- 3 出席者 委 員：大川直子、岡田典子、きくち美由紀、小林廣司、小宮輝之、
齊藤英昭、服部信吾、原はるみ、原田昭、山本光子、笠康三郎
(欠席) 大谷薫、高木晴光

事務局：副市長、環境局理事、円山動物園園長、種の保存担当部長、
管理課長、飼育課長 ほか

4 議 事

- (1) 委員長選出
- (2) 現状説明と質疑
- (3) 次回議題と日程調整

1. 開 会

○金澤園長 それでは、定刻となりましたので、ただいまから第1回円山動物園リスタート委員会を開催させていただきたいと思ます。

本来であれば、会議の進行は委員長が議長を務めさせていただくところですが、本日は初顔合わせということで、まだ委員長が選出されておられませんので、選出されるまでの間、私が仮の議長として進めさせていただきたいと思ます。

私は、円山動物園で園長をしております金澤です。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の出席委員の状況ですが、今回、委員に委嘱させていただいたのは13名でございます、そのうち11名のご出席をいただいておりますので、事前にお配りしております円山動物園リスタート委員会設置要綱第5条第2項の規定に基づき、会議が成立しておりますことを、まず報告させていただきたいと思ます。

次に、委員の皆様の委嘱でございますが、先般、事前に配付資料とともに委嘱状をお送りさせていただきました。平成18年6月27日から1年間ということになっておりますので、この間、ひとつよろしくお願ひしたいと思ます。

それでは、会議が始まります前に、私の方から資料の確認をさせていただきたいと思ます。

封筒の方に入れさせていただきましたが、まず第1回円山動物園リスタート委員会の会議次第、座席表、それから事前配付しております資料1から5と、本日配付しております資料の6から10となっております。このほかに、参考資料としまして、資料11から14ということで、東京都、名古屋市、横浜市、福岡市のそれぞれ動物園の再生プラン等の資料がございます。さらに、資料15としまして、円山動物園関係団体資料がございます。

資料は盛りだくさんでございますが、配付漏れ等がございましたら、後ほどでも結構でございますので、ご連絡いただければご用意させていただきます。

◎加藤副市長あいさつ

○金澤園長 それでは、審議に入ります前に、私ども札幌市の副市長でございます加藤からごあいさつ申し上げます。

○加藤副市長 皆さん、こんにちは。

副市長の加藤でございます。

本来でしたら、上田市長からごあいさつ申し上げるところでございますけれども、あいにく公務が重なって、それがかないませんでした。私の方から、くれぐれも皆様によりしくお願ひするように言づかってまいりましたので、どうぞよろしくお願ひいたします。

今、園長の方から話がありましたように、13名の委員の皆様は快く委員をお引き受けをいただいております。心から感謝を申し上げます。各方面から多種さいさいの方々にお集まりをいただきました。自由闊達な、建設的なご議論をぜひよろしくお願ひしたいというふう存じております。

既にご案内のように、円山動物園は円山公園の一面にございまして、緑の本当に美しい円山、藻岩山という天然記念物の樹林地帯にございます。その懐に抱かれるような形で動物園がありまして、種の繁殖とか、希少種の繁殖とか、環境教育とか、さまざまな機能を有しているわけですが、そういったロケーション含めて、188万人にとっての動物園ということで、大変重要性が高く、かつ潜在性にも富んでいるというふうに考えているわけですが、施設の老朽化、あるいは少子高齢化といったようなことで、入園者が毎年下降気味であるとか、さまざまな問題を抱えているのも事実でございます。

私どもといたしましては、幅広くさまざまなご意見をちょうだいしながら、今後の動物園、将来に向けた動物園のあり方の基本構想という形にまとめさせていただきたいというのが、この委員会のねらいと申しますか、皆様にお知恵を拝借したい内容でございます。

円山動物園は、昭和26年に誕生いたしました。戦後の荒廃の中に産声を上げたわけですが、ちょうど今年が55周年という記念の年次に当たっております。私どもとしては、さまざまな問題を含めて、この55周年を区切りにリスタートし、本当に円山動物園のあり方を考えたいという思いでございます。したがって、この年を新しい円山動物園の出発点というふうに位置づけ、新たな魅力づくり、それから動物園の役割、加えて経営的な面からもさまざまなご指摘やご指導を賜りたいというふうに考えております。我々としては、いわば元年と申しますか、リスタートを切るメモリアルの年にしたいという意気込みでございますので、皆様には、いろいろな観点からご指摘なりお力添えなりを賜ればというふうに思っております。

市長も大変力が入っております、委員会の皆様のご議論のさなかに、こんなものはどうだろうかといった市長のアイデアももたらせるかもしれませんけれども、それもまたひとつお酌み取りをいただいて、今後、市長も議論の輪の中に加えさせていただければと思います。

きょうは、ごらんのようにカメラも報道陣も随分入っておりますけれども、それほどまでに事が深刻だということの裏返しかなというふうにも思っております。ある意味で非常に注目を集めている委員会でございますので、くれぐれもよろしく願いいたします。

以上でございます。

○金澤園長 ありがとうございます。

2. 事務局・委員自己紹介

○金澤園長 それでは、続きまして、皆様から簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。最初に事務局から始めまして、その後、私の右手の大川委員から順に反時計回りでお願いしたいと思います。

きょうは、私の右手から順に50音で並んでおりまして、特に作為的には並べておりませんので、そこはご理解をお願いしたいと思います。

また、もしよろしければ、自己紹介とともに、動物園に対する思いもございましたら、

簡単にお話しいただきたいと思います。

まず、私は動物園の園長をしております金澤でございます。

先ほど加藤副市長もごあいさつさせていただきましたので、その隣の中西理事からお願いいたします。

○**中西環境局理事** 皆さん、こんにちは。

動物園を所管しております環境局の理事をしております中西でございます。

環境局は、円山動物園に関しましては最重要課題の一つとして、今回、円山動物園のリスタートに取り組んでいく所存でございますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○**大谷種の保存担当部長** 円山動物園種の保存担当部長の大谷でございます。皆さん、どうぞよろしくお願ひいたします。

○**鈴木管理課長** 管理課長の鈴木でございます。よろしくお願ひいたします。

○**渡邊飼育課長** 飼育課長の渡邊です。よろしくお願ひいたします。

○**金澤園長** そのほか、係長方が座っておりますが、時間を節約する意味でも省略させていただきます。大川委員からお願ひいたします。

○**大川委員** 皆様、どうもお疲れさまでございます。

JTB北海道から参りました大川と申します。

私がおります市場開発室というのは、北海道内の地域振興、まちづくりというか、地域を元気にしようということをやっている部署でございます。

また、私は個人的に、この近辺にずっと実家から30年余り暮らしておりますので、逆に円山動物園がものすごく身近にあり過ぎて、どういった問題を抱えているのかということが個人レベルでは見えにくくなっているところもありますので、今回、皆様とご一緒にすごく身近にある動物園を活性化させて、よりよいものにしていくお手伝いができたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○**岡田委員** 北海道新聞社出版局の岡田と申します。

出版局で、「いますぐ行きたい!あさひやま動物園ガイドブック」という本の編集を担当しまして、ほかの社員よりは動物園に詳しいだろうということで白羽の矢が立ったのかなと思っております。

私個人としても、札幌に住んではいるのですけれども、円山動物園に行く回数よりは旭山に行く回数の方が多いという現状がありまして、どんな動物園だったら何回も行きたいと思うのかなということ、動物とか動物園を愛する市民としてお話できたらいいなと思っております。よろしくお願ひいたします。

○**きくち委員** 皆様、初めまして、私は有限会社エッグの代表をしておりますきくち美由紀と申します。

今回は、何やら経済界の代表ということで来たのですが、子どものいる人でお仕事をしている人ということで白羽の矢が立ったようですが、22歳、20歳、18歳の子どもがおります。また、私はこのエッグのほかに劇団フルーツバスケットというところを主宰し

ておりまして、そこには2歳から高校生までの子どもたちが200名ほどおります。ですから、動物園のことについては、もちろん見にも来ておりますし、いろいろと興味がありますので、ぜひとも円山動物園の活性化のためにお役に立てたらいいなと思います。

昨日、そんな気持ちもありまして、上野動物園の方へ行ってまいりました。

何かできたらなと思っています。よろしくお願いいたします。

○**小林委員** 初めまして、信濃中学校の小林といいます。

金澤園長さんにお会いして、声をかけられたのですが、こんな会なら遠慮すればよかつたかなと思っていました。そうそうたるメンバーがお集まりです。

私は、中学校理科の教諭であり、生物の専攻でもありますので、動物園は大好きです。もちろん、博物館も大好きですし、科学館も大好きです。どうやったらたくさん経験できるかというふうに考えると、学校でできないことをこういう施設でできるのではないかなということで、学校でそう多く来れるとは思えないのですが、何かいい方法がないか考えてみたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

○**小宮委員** 上野動物園園長の小宮でございます。

きょうは、上野動物園園長というより、日本動物園水族館協会の会長という立場でここに参加させていただきました。

日本には、この協会に加盟している動物園、水族館が162ありますけれども、やはり今、それこそ勢いのある動物園、水族館、あるいは低迷している動物園、水族館といろいろあります。そういう観点からお役に立てればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○**斉藤委員** 皆さん、こんにちは。

緑丘小学校の斉藤と申します。

緑丘小学校はここからすぐ近くにありまして、本当に車で1分か2分ぐらいで来れるところなのですが、こんなに近いのかと今日初めてわかったような次第です。

小学校の代表ということでご指名があったのかと思いますけれども、私の学校もそうですが、多くの小学校の特に低学年が、円山動物園をいろいろな意味で学びの場として使っていると思います。そんな意味でお役に立てればというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○**服部委員** 中小企業家同友会を代表して、1,927社を代表して参りました。

私どもの同友会を代表して来たわけでございますので、まさに1,927社の支援をしっかり取りつけて、委員会を立ち上げるべく同友会の中に申し入れをしているところでございます。

私は服部と申しますけれども、個人的にも動物園は大好きで、私の家にもモルモットが4人おりまして、動物園とともに歩んできたというようなことで、何とかいい方向性をつくり上げていきたいなと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○原委員 円山動物園の友の会、それからボランティアをしております原と申します。

こちらには市民活動ということで、多分、一般市民、主婦の代表みたいなものかと思うのですが、動物園友の会、それからボランティアということもありまして、ある意味、動物園のおたくという感じで呼ばれたのかなという気もしておりますけれども、本人はそこまでおたく気分ではございません。

いずれにしても、動物が大好きですし、この動物園が皆さんに愛されてもらえる場所になってほしいという気持ちは、皆様と同じように強く持っているつもりです。どうぞよろしくお願いいたします。

○原田委員 札幌市立大学の原田でございます。

私は、札幌に来たのが12月28日ということで、まだ本当にほやほやなのですけれども、実は動物園に今まで3回行ってまいりましたが、驚いたのはラクダが雪の上にいるということです。非常にびっくりしまして、砂漠ではないのかと。やはり、これが札幌の資源なのだという実感をいたしました。

実は先日、生き物と人とのかわりということで、秋篠宮殿下との座談会をいたしました。これからの動物にとって、野生と人間の関係という問題と、人工孵化された生物、家畜とかペットとか家禽というような言葉で言われておりますが、そういうものと人間のかわりですね。やはり動物園は、人と動物、生き物との共生のあり方というものを子どもたちにも教える必要があるなというふうに実感したところでございます。何かとお役に立てることがあればいいのですけれども、頑張りたいと思います。

○山本委員 電通北海道の山本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

このところ、仕事の中で、まちをどうするかとか、それから幾つかの象徴的なランドマークになるような組織、建物がありますけれども、それがどうなっていったらいいとか、もう少し言いますと、札幌だけでなくて北海道の観光をどうするかとか、そういうことを仕事としてプランニングすることが多くなってまいりました。そういった観点で参加できればなというふうに思います。

また、個人的には、実は歩いて30分ぐらいのところに住居があります。特に、この冬によく通いましたけれども、私は動物園を通り過ぎて、円山の原生林とか、その丘を登りました。そうすると、札幌のまちで円山というのはかなり独特のいい場所にあるのだということがわかってきました。春なって桜が咲いて、その公園のところもきれいですし、動物園のロケーションも非常に魅力的な場所です。そういったところも含めて、自分なりに考えていけたらなと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○笠委員 緑花計画の笠と申します。

実は、市内の緑の関係では悩み事相談室のような感じでいろいろとかかわっておりますけれども、私個人として、やはり円山に対して非常に思い入れが強くて、私は北海道に来て34年たつのですけれども、この円山の近辺にずっと居を構えまして、宮部金吾先生が

守ったこの場所が、私にとっては非常に大きな意味合いを持ってきているというふうに思っております。

個人的には、私の家が割とこの近くなものですから、子ども3人とも大倉山小学校で、この動物園は庭のように利用をさせていただいております。そういう面では、この動物園には大変お世話になりました。

そんなことも含めて、地域の環境とか、札幌市の中での位置づけとか、そういったものを含めてできる限りのお手伝いをさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○金澤園長 どうもありがとうございました。

このほかに、本日所用で欠席されておりますが、大谷薫委員と高木晴光委員のお二人を加えまして総勢13名ということになりますので、これからもどうぞよろしく願いしたいと思っております。

3. 委員長の互選

○金澤園長 それでは、自己紹介が終わりましたが、委員長を決めないと、私がずっと議長をやっていかなければならないことになりますので、ここで委員長の選任をお諮りしたいと思っております。

要綱では、この委員会の互選ということになっておりますが、どのようにしたらよろしいでしょうか。

もしご推薦いただけるならば、推選していただきたいと思っております。

服部委員、どうぞ。

○服部委員 本委員会においては、動物園の総合デザインということテーマに挙げていかなければいけないと思っておりますし、動物園周辺のまちづくりと調和を保っていかなければいけないと思っております。そういうことで、札幌らしい動物園を検討、また再生していくという観点から、きょうの名簿を拝見いたしますと、デザイン界の大御所がおいでになっておりますので、ことしの春に開学いたしました札幌市立大学の原田学長が最もふさわしいのではないかというふうに思っております。ご推薦申し上げます。

○金澤園長 ほかにございませんでしょうか。

ただいま、服部委員から原田委員を推薦したい旨の発言がありましたが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)(拍手)

○金澤園長 ありがとうございます。

拍手で同意されましたので、早速ですが、原田委員は委員長席の方へお移り願いたいと思っております。

[原田委員長は所定の席へ移動]

○金澤園長 それでは、席に着かれたので、委員長として一言お願いしたいと思いま

す。

○原田委員長 委員長というのは大役だなと感じているところでございます。

私は、大きな計画としましては、1967年という大分昔の話になりますけれども、大阪万博で約100万坪、273ヘクタールの敷地の全体計画をやってきた丹下健三都市建築設計事務所というところがございます、黒川紀章や磯崎新という人たちと約1年ちょっと、私はデザイン事務所から都市建築設計事務所への出向ということでやったことがあります。一つの大きな広場を任せられて、それを全うしたというような経験があって、建築士の免許を取ったというような経緯がございます。

そういう経歴もあってか、つくば大学に参りましてから、笠間市のまちづくりということで、陶の杜公園という有名な公園がございますが、それは早速ということで茨城県から頼まれまして、笠間市の市長にお会いしに行ったところ、突然、まちづくりをやっていたきたいと。当時、講師でございましたけれども、私は市長の言葉に非常に感動を覚えたのです。それは、20年後に完成する壮大な都市、まちをつくっていただきたいということだったわけです。実は、20年後が今から数年前にやってまいりまして、めでたく開園ということで、今は、笠間市の一番の目玉となりまして、事業としても一番の目玉になっておりますが、そういうものを手がけた経緯がございます。

それから札幌に参ったのですが、実は円山動物園を何とかしてくれないかという一言が市長の口から漏れた瞬間がございます、私のことも余りご存じではないのに、ご冗談かなというふうに思っておりました。それから、私は、どういうふうにしたらいいかというイメージも含めて、とにかく動物園に行ってみようということで、先ほどどなたかが円山に登られたというお話をされましたけれども、私も円山に登ったのです。それで、円山動物園の裏口はこちらという標識を見て降りてまいりまして、裏口から入って正面に出られるというふうに信じたのですけれども、入り口がないというか、わからなかったのですね。非常に困りまして、大分迂回して正面玄関まで行ったという経験をいたしました。せっかくの円山と動物園がつながっていない。これは、大変なことというより、つなげたらいいのになというふうに素直に感じたところでございます。

きょうは、突然のご指名ということでございますが、私は動物が大好き人間でございまして、虫も動物のうちでございまして、虫も含めて生き物大好き人間でございまして、何とか生き物の世界と人間がかかわる瞬間というものでいっぱいにした、そういう動物公園を目指して、新しいアイデアを盛り込んでいければいいかなというふうに考えております。

まずは、進行に当たりまして、リスタート委員会の職務代理者を委員長が指名するということになっているのですけれども、これにつきましては、先ほどご指名をいただいた服部委員に自己責任をとっていただくということで、代理を務めていただければ大変ありがたいというふうに思います。

服部委員を職務代理者に指名したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)(拍手)

○原田委員長 それでは、どうぞよろしくをお願いします。

4. 議 事

○原田委員長 それでは、まず最初に、資料に基づいて現状の説明をお願いいたします。

○金澤園長 申しわけございませんが、加藤副市長は所用がございますので、ここで退席させていただきたいと思っております。

[加藤副市長退席]

○金澤園長 資料に基づいて説明させていただきたいと思っております。

説明の時間は40分ぐらいかかるかと思いますが、順次、進めさせていただきたいと思っております。

まず、簡単に動物園の歴史からお話をさせていただきます。

昭和25年に、円山動物園の下にある坂下グラウンドで移動動物園、それこそ上野動物園の移動動物園ということで1回目が開かれて、それを受けて、昭和26年に円山児童遊戯施設ということで円山動物園が開園しております。国内で10番目ということになります。

そして、その年の9月に円山動物園と改称してございます。

その後、いろいろな動物の整備をしながら、獣舎も整備いたしました。

そして、平成3年に開園40周年を迎えまして、ここで子ども動物園といったところの拡充がされてきています。

平成7年に熱帯鳥類館、そして平成12年に開園50周年を迎えまして、ことしにサル山展望レストハウスがオープンしてございます。

それで整備されたのがこちらの現況図になりまして、これは既に事前資料として配付させていただいているものでございます。これで今の形ができ上がったことになります。

続いて、動物園の簡単に概況をお知らせしたいと思います。

お手元の事業概要の中にありますが、今申し上げましたとおり、開園は昭和26年5月5日のこどもの日です。

それから、所在地としては、宮ヶ丘3番地1ということで、都心から約4キロメートルというすごく立地条件のいいところですよ。

面積は、22ヘクタール、約6万8,000坪になります。

それで、敷地は南北に700メートル、東西400メートル、高低差では40.9メートル、東西では11.5メートルという結構アップダウンのある園となっております。

現在の飼育展示動物といたしましては、哺乳類が63種、鳥類が103種、爬虫類が30種ということで、動物関係で約200種、それから昆虫類で37種、合わせて233種になります。それで、全体では5,750点ということで、現在、展示してございます。

その中でも希少動物と言われているものとしては、哺乳類が23種48点、鳥類では9

種45点、爬虫類2種7点ということで、これもお手元の事業概要に詳細を書いてございます。

それから、長年飼育している動物としては、アジアゾウなのですが、59年です。これは推定年齢です。それで、今年7月15日、これはちょうど園に来た日なのですが、還暦のお祝いがございます。ボランティアも含めて、実行委員会をつくって、今、準備をしております。そのほか、コンドルが50歳、チンパンジー、カバ、オオワシということで、ある種、高齢化している動物園でもあるということになります。

それから、動物園の中では、動物園と動物園の間での動物の貸し借りというものがあります。その中で、現在貸し出しているのは35種38点で、24の動物園に行っております。代表的なものでは、最近皆さんになくて寂しいと言われているのですが、京都に行っているゴリラのゴンがおります。そういった動物を貸し出ししております。借り受けということでは、18種25点借りております。これらもみんな一緒にあわせて、今の動物園の中で展示させていただいております。

構造物としましては、動物施設が28棟、管理施設が27棟、教育施設が2棟あります。教育施設というのは、向かい側にあるのですが、動物科学館というのは教育面に使っております。便益というのはトイレなどの利便に供するもので、合わせて62棟、2万4,600平米ということで、結構大きな土地の中に建物が点在しております。

次に、動物園の開園ですが、ほぼ1年間営業しております。12月29日から31日の3日間を除いて、362日間営業しております。開園時間としましては、2月から10月までの夏場営業ということで9時から17時まで、11月から1月は冬場営業ということで16時までとなっております。

入園料は、大人——高校生以上ですが、600円です。このほかに、年間パスポートは1,000円で販売しております。これは発行日から1年間有効です。それから、30人以上になりますが、団体の場合は540円です。中学生以下の子どもは無料、それから高齢者や障がい者等についても無料となっております。

それから、駐車場ですが、駐車台数は第1、第2合わせて830台とめられるようになっております。その中でも、普通車は700円、大型バスは1,200円、中型は1,000円というような料金体系になっておりまして、これは1日1回当たりでございます。

そろそろ動物園の本題に入っていきますが、入園者でございます。

お手元に同じ資料がございますが、上の方は総入園者数で、下の赤い方は有料の人数でございます。

ピークはここにありまして、昭和48年に124万人で、この前後7年間は大体100万人を超えていました。この時期の人口が大体120万人ですから、人口に匹敵するぐらいの人数が入っていました。この時期はどうなっていたかといいますと、ちょうど子ども料金とか高齢者の料金が無料になったことによって増えた、それから、こういう施設整備が進んできたということで増えてきたことが考えられるだろうと思います。

ただいま、現状としましては、平成17年で50万4,000人ということですから、ピークと比較すると半分以下になりますし、人口対比で見ると大体4分の1ぐらいということになるかと思えます。今はそれぐらい厳しい状態になってきております。

それで、これは去年と今年を比較したのですが、入園者は、去年1年間で50万3,800人でございます。そのうち、青で書いた20万1,900人というのは、昨年4月から6月までの数字でございます。それに対する18年度はというと、24万2,394人ということで、去年に比べて20%増加しております。あとは、有料で見ますと、129%ということで29%増。それから、団体の中でも、小学校の遠足といった無料の団体などがありますが、それは98%ということで去年よりちょっと落ちています。それから、個人の無料というのがありまして、これは、先ほど申し上げました高齢者や障がい者などがみんな含まれるわけですが、団体以外の個人ということなので、これは17%の伸びとなっています。それを合わせて全体で20%の伸びということになります。このままいきますと、今年は大体60万人ぐらいの予想になるだろうと思っています。しかし、冬場にかけてどうしても入園者が減ることがありますので、余り楽観視はできないかなと思っています。

次に、動物園の運営にかかわる予算でございます。

これは去年の17年度の決算ベースですが、4億7,000万円です。これは、人件費除いた管理経費だけで4億7,000万円でございます。そのうち、維持管理に要しているのが1億9,000万円。水道、電気、燃料といったいわゆる光熱水費の部分が1億7,800万円。飼料というのはいさのことですが、動物のえさとか、薬なども含めて5,500万円。そのほか、教育普及、事務費関係で4,900万円。こういう構成になっております。

その中でも特徴的な例としまして、光熱水費ですが、1億7,800万円のうち、水道にかかわる部分が約1億円ございます。これは、一般的な家庭から見ると水道の量は突出しております。動物園は、どうしても海獣舎とか、動物舎そのものにプールなどがあるという影響でございます。

次は、主な管理業務ですが、今、管理業務として1億9,000万円と言いましたが、その中でも施設設備等の維持管理業務は11件を業務委託しております。それから、清掃とか警備、飼料の園内での運搬、事務機器等の保守点検業務、それに、ここの券を売ったり案内業務もやっていますし、普及、PR関係の業務です。この括弧書きの部分はその業務の本数でございます。それぞれの内容をやって分けてございます。29本ありますので、結構な量になります。

それから、動物のえさ代としては、これは日ごろ皆さん耳なれないところだと思うので簡単にお話ししておきます。

主に馬肉とか鳥の肉が多いですが、これで大体500万円を超えるぐらいです。野菜は、ニンジン、キャベツ、ジャガイモといったたぐいがすごく多いです。これは、後でお見せ

したいなと思うぐらい、倉庫にすごい量があります。今は越冬用のものがないので倉庫の中はからっぽになってきていますが、大体1,200万円です。果物では、リンゴ関係がすごく多くなっています。それから、魚としては、ホッケ、ハタハタ、オオナゴといったものが多く、特にホッケはトドの海獣舎でたくさん食べますので、いい金額が出ています。あとは、牧草関係、配合飼料、鳥用の飼料ということになります。

それから、実施事業として、これは資料の方に詳しく書いてありますが、項目だけ挙げますと、常設の展示や付帯展示を行っています。それから、企画イベント事業、種の保存事業、園外での活動事業、研究・交流事業、集客事業、簡単に申し上げてこの六つに分けられる事業を実施してございます。

ただいま、全体の予算をお話させていただきましたが、この中でも収入はどのようなのでしょうかということです。先ほど申し上げましたように、4億7,000万円、約5億円のお金がかかるわけですが、そのうち入園料でカバーできる分は1億3,500万円です。それから、売店使用料というのは、売店に対して動物園の土地を貸しているということで、それに対する使用料が1,700万円で、その他の収入として600万円ありまして、1億6,000万円ぐらいはこういう収入でカバーしていますが、残りの3億1,000万円ぐらいは税金が投入されています。

それから、駐車場は特別会計ということで別会計なのですが、1年間に7億2,000万円ぐらいの駐車場使用料が入っております。ただ、ここの駐車場は動物園の駐車場だと市民の皆さんも思われているようですが、実は動物園ではなくて円山公園の駐車場なのです。きっと利用されている方は、これは動物園の駐車場だと思っていると思いますが、野球や花見に来ててもここの駐車場は利用できるという位置づけになっています。

それから、これは私どもに直接関係ないのですが、この園内には売店とか食堂がございまして。これは、先ほど申し上げましたように、土地を貸す形でやっておりますが、その売り上げが大体年間1億2,000万円ぐらいで、その利用者は、これはぴったりカウントしていませんが、推計で50万人のうちの26万人ですから、入園者のおおむね半分は何らかの形で売店等を利用していることになります。それを単純に客単価に置きかえると、大体471円となります。このぐらいの収入があるということでございます。

それで、私どもが動物園全体を運営していく中で、いろいろなところにいろいろなものを貸しております。サービスに関する主な許可ということで、キッドランドという遊園地がございまして。こちらは約5,000平米の土地を貸してございます。それから、食堂、売店ということで4店舗ありまして、1,500平米です。それに、記念品売り場、コインロッカー、乳母車を置いておく倉庫、自動販売機、こういった形になっています。動物園を運営していく中で、どうしても必要な部分の許可をしております。

あとは、関係する団体としまして、動物園の中には有限責任中間法人というものがあつまして、これは札幌円山動物園協会という法人格を持った協会でございます。それから、今回の原委員が所属しております円山動物園友の会、それにボランティア会という三つの

団体が動物園内でそれぞれ活動しております。

この詳細については、お手元の資料15に書いてございます。

それから、今回、なぜ動物園がこういう委員会をつくってビジョンをつくらなければならないかという背景の一つになった行政監査がございまして。

これは、今年の4月、5月に大きく新聞に取り上げられたので、ご存じの方もおられると思いますが、まず、今年の1月から3月にかけて行政監査が実施されました。行政監査というのは、通常の監査事務局がやる監査の中でも、今回初めて動物園に特化して行った監査でございます。今回、札幌市で初めての行政監査ということです。

それはなぜかといいますと、平成17年7月、昨年のごごろですが、スーパーの火災で発生した飼料等を持ち帰ったという事件がございまして、それに端を発して職場風土とか、管理運営が効率的ではないとか、効果的ではないといったところが指摘されました。それで、きちんとサービスがされているかどうかを監査しましょうという視点で監査に入っております。

それで、その中の指摘事項が大きく五つございます。

その中の1点目は、これは監査に書いてあった言葉をそのまま入れてございます。まず、組織としての機能不全です。これは、人間の病気だったら死んでしまう状態の言葉です。

それから、組織としての孤立ということで、これは簡単に言いますと、どうも私たち市の職員にあっても、動物園というのは札幌市の組織、機構の中ではあるが、どうも動物園というのは別物だなという意識が働いていまして、そういった視点を孤立していますというふうに表示されております。

次に、トップマネジメントの欠如というのは、まさに私のことを言われているのですが、園長として機能をなしていない。それはなぜかといいますと、私で11代目の園長なのですが、初代、2代までは十数年園長をやっていました。この後が5年、6年ということで、その後は人事異動のサイクルが変わってきて、大体2年ないし3年ぐらいのサイクルで異動してきています。そんなこともあって、園長として仕事をわかって、動物園のことをわかってしっかりマネジメントができないうちに異動していなくなっているという点の指摘でございます。

それから、飼育員の意識の格差というのは、飼育員は大体20人いますが、その中にも意識格差がすごくあるということが今回指摘されております。

それから、エのセクショナリズムと前例踏襲というのは、どうも古い体質のままで、かつ、私どもは飼育課と管理課があるのですが、この間がスムーズでないよという指摘でございます。そういう意味では、組織として一枚岩になっていないという指摘がされております。

次に、大きな指摘事項の2としましては、構想と計画の不存在です。まさに将来構想がないとか、施設が老朽化しているけれども、その改修計画もないというところを指摘されております。そんなこともあって、今回、皆さんにご尽力をいただいたわけでござい

す。

次に、大きな指摘の事項の3としましては、経営的視点の欠如ということで、どうも役人にはこういったところが足りないとはっきり言われております。それから、多額の累積赤字というのは、いろいろな意見はあると思いますが、とりあえず申し上げますと、収入と支出の差、それから人件費も含めて、その差が年間約9億円ぐらいの赤字になっています。先ほど申し上げましたように、収入が約1億6,000万円で、管理経費が4億7,000万円、そのほかに人件費が大体3億5,000万円ぐらいありますので、それを合わせると、単純に言って年間で9億円、10年間で90億円の赤字がありますよという指摘をされているところでございます。それが、今回の多額の累積赤字というものです。

それから、次は入園者数データの軽視ということですが、これも厳しい指摘なのですが、先ほど申し上げましたように、昭和46、7年ころに高齢者とか子どもたちの入園料を無料にしたことによって、それまでは有料だったから数をしっかりカウントしておりました。券を売ることによって数をカウントできていたわけですが、その後、有料はきちんと数えているのですけれども、無料の部分を軽視してきたというところでございます。そんなことがあって、現実のデータと公表しているデータに差があるのではないかと厳しい指摘をされております。そんなことがあって、今年度からは実数でカウントしておりますから、先ほどは何万人という数字を出しておりますが、去年の50万4,000人に対して、今年はしっかり計数をとっていきますから、それでも大体60万人近い数字は確保できるかなと思います。

それで、予算上の有料の人数についてはしっかり押さえてきたけれども、無料のところを軽視してきたということで、入園者数というのは、動物園がよかった、悪かったという評価指標となるという視点がちょっとなかったということなのかなと思っています。それで、今年からは、指摘されたことを受けて、それに耐えられるよう、今、計数をしっかり押さえていっているところでございます。

次に、指摘事項の4としましては、業務委託に見直しの余地があるということですが、これは、まさにどの時点でもそうなのですが、業務委託は常に正しいか、効率的か、合理的にされているかという視点でしっかりやってくださいと。それで、今年度、一たんの見直しをしております、さらに来年に向けても見直しをしていきます。

次に、指摘の5は、市民団体の意見が運営に反映されていないということでございます。これは、団体からのインタビューに答えた方がこう言われたのがそのまま出ているようですが、動物園は十分に意見を聞いていなかったということなのだろうと思っています。ここについても、今、既に改善を進めてございます。

そういう中で、最終的に、これは指摘とは別ですが、ここに要望と書かれておりますけれども、廃止といった危機感を持って、特別会計とか指定管理者、あるいは民間移譲も視野に入れて動物園の今後のあり方をしっかり研究してくださいという指摘をされております。

これに対して、それでは動物園としてはどうしようかということでございますが、これは、いろいろな機会にこの文のままお答えしております。

ここを読ませていただきますが、指摘を厳粛に受けとめ、組織としての機能不全、構想と計画の不存在、経営的視点の欠如といった種々の課題の解決に向け、市民とともに考え、動物園の基本構想を策定するというところでございます。

これが、今回の委員会のバックボーンになっているところでございます。

それで、私どもの執行体制ですが、市長、加藤副市長が担当副市長で、そして環境局長と、ここにおります中西理事が私どもの上司ということで、その下に動物園があります。そして、私、園長と種の保存担当部長、そのほかに管理課、飼育課とありまして、総勢で43名で運営しています。このほかに、委託とか許可している売店などを含めると、園にかかわっている人は大体200人いるだろうと思っています。いるだろうというのは、しっかり数が押さえられないということです。ゴールドンウイークなどになるとアルバイトの方がふえますので、そこはちょっと数がとらえられませんが、おおむね200人はいるというところでございます。

それでは、動物園の役割というお話をさせていただきます。

動物園の役割の変化ということが大きく言えると思います。一つは、世間的な流れでいきますと、レクリエーションが多様化してきました。昔は、動物園という一つのレクリエーション施設であったのですが、その後、レクリエーションが多様化されて、動物園以外の選択肢がふえてきて、そのために入園者が減ってきた。もう一つは、メディアの発達によって、魅力ある画像をテレビなどの中で見れるようになりまして、そこで満足してしまうと動物園には行かなくていいとか、おもしろくないとか、少子化という問題から減ってくるという作用が出てきます。さらに、動物観ということでは、動物に対する福祉とか、動物園で動物を飼うこと自体が愛護団体から見ると問題だというような指摘もあります。それから、野生動物が減少している。そういう複合的なことがあって、今言われている入園者の減少というところにつながってきたのだろうという見方です。そういう中で、今、新しい動物園が求められていると思います。

一方、動物園側の対応はどうしてきたかと申しますと、ここにありますように、環境とか種の保存、野生復帰というようなことを中心に、動物を中心にする魅力ある展示ということにもっていかうとか、生態展示、環境展示、こういう中に行動展示ということで、まさしく旭川の旭山動物園という事例があって、今、新しい動物園が求められているということではないかと思えます。これが役割の変化です。

それでは、動物園の使命というところで見たらどうなるでしょうか。

まず、今まではレクリエーション、社会教育施設、それから自然保護と動物研究といった展示という四つの項目に大きく分けられると思います。これらが、レクリエーションであれば、最初は単に見るだけでよかったものが、今は人間性の回復とか癒しという言葉に置きかわるようになってきました。動物に対する、動物から得られる癒しということに変

化してきているのかなと思います。社会教育という意味では、環境教育とか動物の現状認識とか、自然保護ではこういう保護、増殖とか、それから野生に復帰させるというようなこと。それから、動物研究の中では生態とか行動というものが見られるようになってきました。それで、社会的役割としては、今申し上げましたが、動物園には大きく四つの機能があって、一つは人間性の回復ということでレクリエーションというくくり、それから社会教育という意味では生命教育とか環境教育、それから自然環境の中では野生復帰とか種の保全、動物研究という中には動物学とか生命学というような考え方があってのだろうと思います。

それでは、実際に市民が求めている動物園というのはどんなものだろうか。

一つは、楽しい動物園です。ここに来ておもしろかったね、よかったねという視点です。それからもう一つは、動物園に来て何かを学ぶことができる。それが学習プログラムとか解説というもので、それに介在しているのがまさにボランティアだろうと思っています。

次に、役立つ動物園です。これは、いろいろな保護動物とか希少動物の繁殖という視点がございます。

さらに、人間ですから、個人的なところで、「これは私の動物園だ」と思いたいというところで、情報の発信とかコミュニケーションという課題があるのだろうと思っています。

次に、展示の方法も変化してきています。もともとは個体展示ということで、一つ一つおりに入れて見せていけばよかったです。今は群れとか異種混合というように共存させる見せ方になっています。それから、形態としては、行動比較とか生息環境の比較、それから、今でも円山動物園は鉄とコンクリートでできているのですが、土とか木や草などを使って、自然というのがベースになってきています。それから、どうしても人間が動物を管理しやすいようにという管理中心型の考え方から、今は動物中心型の考え方へ変わってきております。展示としては、こういうふうに変化してきているかなと思っています。

それでは、これからの動物園の役割にはどういうものがあるかといいますと、今まではレクリエーション機能があったわけですから、そこに社会教育機能、環境教育機能、それに種の保存という機能が付加されていくのかなと思います。

それで、皆さんにこれからご議論いただくところは、まず中長期のビジョンを策定しましょうということです。それで、基本構想の策定というのがよく言われるマスタープランなのですが、18年度中に策定を終えたいと思っています。ぜひ、そうしていただきたい。それで、実施計画となるアクションプランは、来年の春からスタートできるようにしたいと思っています。

それで、構想の策定の意味を整理してみますと、まずは意義や理念を整理して、その中で方向性を決定いたします。そうすることで、新しい動物園を目指すことができるのではないかなという考え方に至っております。

このほかに、動物園だけでなく、新しい視点としては、先ほど行政の中で孤立しているというお話がありましたように、札幌市という中での動物園をどうしたらいいか。それ

から、円山という自然環境を活用した動物園をどうしたらいいのか。それから、ここの動物園の周りがある円山とか宮の森、円山西町といった地域とのつながりの中でのまちづくりの核となる動物園というのはどうなったらいいか。それから、道内には札幌のほかに旭川、帯広、釧路と全部で四つの動物園がありますが、こういったところで同じものを同時に展示したり、役割を分担する必要はないのだろうか。お互いにそれぞれの役割分担を持つこともできるのではないかなという視点です。それから、いろいろ言われておりますが、今回は産学官との連携ということを新しい視点の中にしっかり入れていきたいと考えております。

それで、これは皆様のお手元にお配りしてございますスケジュール表ですが、本日の1回目の委員会から大体7回まで予定してございます。とりあえず、そのうち5回目までは日程調整を一たんさせていただいております。

その中で、1回目では現状把握などをさせていただきます。2回目は、課題群の整理や抽出をさせていただきたいと考えています。そして、3回目で構想をいろいろ検討していく中で経営方針などを検討させていただきます。そのころには、市民1万人に対して、動物園をどうしたらいいか、どういった点を希望しているかという市民アンケートを実施しますので、そのデータが反映できると思います。そして、4回目には構想案、5回目には中間報告がまとめられるようにしたいと考えております。さらに、10月から11月にかけて、基本構想のビジョンの中間報告をまとめていただきたいと思います。これは、たたき台になるものでして、内部手続を経て、計画をつくるときは市民に対して意見を聞かなければならないので、パブリックコメントを実施することになります。それが、大体12月から1月にかけてできるかなと思っています。そして、最終的に3月に基本構想を決定したいと思っています。そして、4月からの実施ということです。

それから、中間報告が出た段階では、ここにありますが、市民を対象に中間報告の内容を説明するとともに、できればワークショップを展開したいなということで予定を立てております。これについて、これから内容を詰めさせていただきますが、そういうスケジュールで検討を進めていただきたいと思います。

次に、構想の考え方なのですが、ここで委員会の役割を簡単にお話申し上げますと、長期的な計画と短期的な計画がある中で、基本構想は長期的な部分になると思います。それで、アクションプランという実施部門の実施計画が短期的な部分になります。あとは、経営戦略ということで、これからどうしたらいいかという現実的な目標を整理するところがあります。それで、今回、委員会の皆様をお願いしたいのは、まず基本構想案の策定でございます。これは、先ほども申し上げましたように、最終的に内部決裁をとって市長決定をすることになります。そして、アクションプランという実施計画については、私どもで作成して、承認していただければ、まちづくり計画ということで札幌市の計画の中に盛り込むことになるだろうと思います。

札幌市の計画全体は、札幌市基本構想という条例と、それから長期総合計画というもの

がありまして、こういう中に位置づけられたまちづくり計画の中で、今まさにつくっていただく動物園のプランをしっかりと位置づけていこうと思っております。今までは、残念ながらそれがちょっとなかったということもあって、厳しい計画の実施という状況を迎えております。そういうことで、今回はしっかりと市の計画の中に盛り込んでいこうと思っております。

それで、基本構想と実施計画の関係イメージです。これはイメージ図ですから、このとおりという意味ではなくて、こういうイメージということ。基本構想は、ある一定のスパンの長期的な計画になって、あわせて経営戦略を持ちます。その経営戦略は、その時代とともに変わるであろうという予想のもとに、きっと何回かの見直しが必要になるだろうと。それから、もしどこかの施設を整備するといったときには、何年かのスパンでやることとなります。例えば、1年目に施設の全体計画をしっかりと議論して、実施計画を設計します。そして、建設を1年なり2年でやろうと。こういった繰り返しが、1回目、2回目、3回目というような形になる。それには、この計画の整備をする前に、ここの施設では動物をどういうふうに見せていったらいいかというソフトの議論をしっかりとしてからこの整備をやっていきたく。それが、まさにここの紫色の関係です。そういうふうな段階的なイメージが持てるのかなと思っております。

それで、繰り返しになりますが、まず基本構想のイメージとしましては、動物園の役割やコンセプトと、円山地区全体のエリアでの考え方。それから、環境教育とか種の保存といった機能別の問題。それから、経営戦略としては、当然、先ほど申し上げた赤字という問題もあるので、増収対策とか効率化、集客対策、こういった魅力づくりの話がいろいろあると思います。それで、アクションプランとしては、実施計画ですから、施設整備計画とかそれぞれの施設等、それから企業協賛といった市役所内の連携をどうしようかということになろうかと思えます。こういったイメージを持ちながら、基本構想で皆さんでご議論をいただきたいと思えます。

ただ、基本構想をご議論いただくのですが、そのほかの経営戦略やアクションプランにかかわるようなものであっても、何らお断りするわけではなくて、すべてを含めて議論して、こういうふうに分類していてもいいのかなと思っております。

これが最後のページでございますが、先ほども副市長からありましたように、円山動物園は55歳になりまして、今、56年目に入りました。ここにありますように、若いころは、とてもたくさん子どもたちに囲まれて、すごく幸せというか、にぎわっておりましたが、最近は少し寂しさを感じます。それで、私もこの施設もあと5年で還暦を迎えますが、還暦は一般的に生まれ変わって子どもに戻る年と言われておりますので、今度はどんな動物園に生まれ変わるのか、それこそ皆さんにぜひおつくりいただきたいと思って、今回、委員会を設けたわけです。

そういうことで、ちょっと長くなりましたが、私の方からの説明は以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

大変な動物園の歴史とか、現在抱えている問題とか、現在動物園がどのように変わりつつあるのかという一般的な状況とか、これからこの委員会をどのように進めるのかというスケジュールの問題等々を一気にお話しされましたので、頭も胸もいっぱいになっております。まずは、今、いろいろとご説明がありました事柄について、忘れないうちに質問等がございましたらお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

○笠委員 利用実態調査は、いつごろ、どういうふうに行われていますか。

○金澤園長 利用実態調査といいますと……。

○笠委員 例えば、市内からがどれくらい、市外からがどれくらい、平日、休日でどのくらいという調査です。

○金澤園長 実は、市内、市外のデータはないのですが、日にちごと、曜日ごとのデータはあります。ただ、今申し上げましたように、過去のデータはないので、もしやるとすれば、これからつくっていかねばなりません。

○笠委員 例えば、車で来ているとか、地下鉄で来ているとか、そういうものもないのですか。

○金澤園長 ないです。

実は、ほかの園でそれをやっているところがあって、そこはどのような方法でやったかという、物をプレゼントするから住所と名前とどこから来たかを書いてくださいというやり方なのです。そうすると、大体の傾向を押さえられます。ゴールデンウィークみたいに人の多いときにわっとやっていると、それで傾向を押さえ、それで全体の何%が市外という見方をしているところがあります。あの方法はいいなと思いました。全部からとるのは難しいので、そういう抽出でやる方法はあるなと思いました。何かのイベントのときに、プレゼント作戦の一つとしてやったらできるかなと思っています。

○原田委員長 ただいまのご質問ですけれども、利用実態調査ということで、いわゆる動物園にどのように人が入って、入った人はどのような経路で何を見ているのか、それから、どの動物館にどのくらい滞留しているかということをし少し調べるだけでも、現在の実態が把握できるのではないかと思うのです。多分、委員の先生方はそれぞれごらんになっていると思いますので、あそこに何があってというのはほとんどご存じだと思いますけれども、自分以外の人たちはどう見ているかということについては余りご存じないのではないかと思うのです。私は、これはとてもいいチャンスでもありますので、まずはそういう実態を把握するところから進めるというのは大賛成です。

入場者すべてについてやるのは大変なことだと思いますけれども、今は情報機器もなかなか進んでまいりまして、USBという小さな記憶媒体があるのですが、その中にGPSの機能が入ってまして、衛星からの位置決めを非常に簡単にすることができるのです。中には、4,000ポイントの座標を1分ごとに同時に記録していくのです。時刻と座標を時系列的に記録していくことができるのです。今、グーグルアースというソフトがある

のですが、衛星写真で札幌全域がすべて見れるようになっていました。この円山動物園を拡大した画像のところにそれを差し込んで、自分の歩いた、あるいは他人が歩いた軌跡をだっと時系列ごとに記録して表示してくれるのです。現在はそういうところまで進んでおりますので、入ってきた人にペンダントのようにつけてもらって、出口のところで回収する。そうすると、全然わずらわしくなく、それを実現できるのです。それを30日間続ければ、10セットでも300人の軌跡がとれます。それで、ほとんど人気投票は決まりといてもいいのではないかぐらいのデータはとれるわけです。

そのように、できるだけ省力化して、最新の技術を活用してデータ化する。印象あるいは感想という主観的なデータではなくて、できるところはそういう客観的なデータを収集して、それを解釈していくというところにこの委員会を機能を位置づけていきたいと私は思っております。今ご発言いただきましたけれども、できるだけ利用の実態というものを把握したところで、問題はどこにあるのかということを検討していったらどうかというふうに、先ほどからお聞きして考えていました。

ほかにご意見はございませんか。

きょうは、いろいろと資料が添えられていますけれども、この資料についてのご説明は、今のパワーポイントですべてということになりますか。

○金澤園長 そうです。

○原田委員長 先ほど園長から、入場者数が動物園の評価を決めるというようなご発言がございましたけれども、それだけではないように思うのです。例えば、この動物園にこんな動物がいる、あるいはこの動物はこういう世界を持っているというふうに、私はここの動物園は何回かしか見ておりませんので、はっきりしたことは申し上げられないのですが、動物にはたくさん面がありまして、ある瞬間ぱっと見ただけでは、この動物はこうだというふうに言い切れないところがあります。ですから、潜在的にしか持っていない才能あるいは能力といったものを見せる機会を与えてあげるといいますか、逆に、見にくる人は私の本当におもしろいところを何も知らないなと動物に思われているかもしれない、というような世界を飼育の方はほとんど知っているのではないかというふうに私は想像いたします。

つまり、動物の魅力というあたりについて、上野動物園園長の小宮委員にお話をいただきたいと思えます。

○小宮委員 それは、旭山動物園が成功させました。つまり、今、映像があるからいいのではないかという考え方もあるのですけれども、やはり動物園の魅力は、本物の動物がいるということです。それで、例えば教科書や映像で見たものの本物を動物園で見たけれども、寝ていたというのではなくて、その行動を引き出したというのが一つの成功のかぎだと思ふのです。そうすると、その動物は世界の珍獣でなくていいのです。ふだん、我々のそばにいる動物がこういうことをするのか、北海道だったらエゾリスでもいいですけども、そういうところは動物園しかできないことです。

僕はよく言うのですが、上野動物園も種の保存、ズーストックの時代で、ちょうど21世紀まで、最後の12年間それをやったのですけれども、やはりお客さんも減りました。例えば、東京の場合は四つの動物園、水族園があるので、分担施設ということで、ライオンも多摩の方に持って行って、多摩で見てくださいと。ところが、ライオンのいない10年間、上野動物園に対する投書は、ライオンが見れなかった、残念だったというものでした。

戦後、上野より北に動物園はなかったのです。今は秋田にも札幌にもみんなあるのに、ライオンがいるのに、みんな上野に見にくるといのはどういうことなのかなとちょっと思いましたけれども、ズーストックの時代には、哺乳類が60種類ぐらいおまして、上野が一番多いときで130種類ぐらいの哺乳類がいました。これは、世界の首都の動物園で、哺乳類が100種類を切っているところは余りないのです。それで、ズーストック時代にすごく減らして、希少種をまじめにふやそうと。ところが、そのライオンの話もありましたし、ズーストックの計画事業として終わった時点でいろいろな動物を戻しています。10年間、タヌキもいなかったし、ロバもいなかったし、ブタもいなかった。ロバもブタも1頭でいいのです。これは希少種ではないから、ふやす必要はない。そのかわり、お客さんに「ロバってどういう動物ですか」と聞かれたときに、「これです」と言えば終わるのです。それで、大きさにおいも声もわかるし、もしかしたら肌ざわりもわかります。ところが、ズーストックの非常にまじめなことをやった時代は、「実はこれは上野にいないのですよ、どこへ行って見てください」と。それだったら、本当に図書館へ行ってくださいというようなもので、やはり実物の魅力を出すということがこれからの動物園では大事なことになります。

その動物は、僕は何でもいいと思うのです。当たり前動物でもいいと思いますし、それぞれの動物園にとって、うちはこうだというような個性を出して動物を展示していくというのが分かれ目になるのかなという気がします。

○原田委員長 ありがとうございます。

先ほど、現在の円山動物園がこのような経緯を経てきたという説明がありましたが、実際にそれを見てきた市民はどういうふうに見てきているのかという立場から、山本委員からお話をいただきたいと思います。

○山本委員 私が今思っているのは、そもそも円山動物園はだれに対して何を伝えていくところなのかなということです。仕事ベースで考えると、よくターゲティングとプランニングというのですけれども、成り立ちを聞いていますと、私たち札幌市民にレクリエーションの場とか、先ほどのパワーポイントでは癒しの場ということになるのだけれども、それは子どもなのか、少し年齢が高いのか、女性なのか男性なのか、いろいろな属性によってちょっと向きが変わってくるのかもしれない。そののころを、この委員会でも考えなければいけないのかなと思います。

それで今、委員長からご質問があった私自身が市民として言うと、私は子どもは1人し

かないのですけれども、よく遠足で来たり、天気の良い日、ちょっと行く場所に困ってどこか連れていこうかなというときに来ました。実は、コースも成り行き次第で、どこに何があるのか正確に知らないで何度も来ています。もう少し言うと、安心なピクニックの場所であって、動物を見ても見なくてもどっちでもいいときも実はありました。鳴き声が聞こえたり、においがあったり、そういう環境自体がおもしろいので来ているというところもあります。それから、先ほども言ったように、私の家から歩いて来れるし、自転車でも来れるので、その来るプロセスを楽しむという場所でもあります。

ただ、札幌のまちも、私は子どもとともに十三、四年住んでいますけれども、状況が変わってきています。交通手段も変わっているし、円山を取り巻く環境も少し変わっています。もともと裏参道をつくって活性化していたときもあったけれども、今、裏参道が格好いいところかという、そうでもないかもしれない。まちの様相が変わっている中で、動物園だけが、今で言うともうレトロになってしまった売店が中にあったり、このごろサル山のそばに違うものもできましたけれども、変わらずそこにある。その良さもありつつ、何かもうちょっとめり張りが無いのかなというようなどころがあります。

風景として見ても、夜やっていたらもっとおもしろいと思います。今度、カルチャーナイトなんかであるようですけれども、時間帯で切ってみると、動物のいろいろな行為、行動があるし、寝ているときも起きているときもあるのだろうけれども、どう違うのかなど。

あとは、やはり季節ですね。先ほど、委員長が冬の動物園はすごくいいのかもしれないという話をされましたけれども、冬が長いところだからできることもあると思います。

正直言うと、見る側も余り過大に期待してこなかった場所かもしれません。これでいいのかなとか思って来ていたのだけれども、そろそろ、冒頭申し上げたように、まちのあり方も変わってきたし、私たち自身もいろいろ思うことがふえてきた中で、やはり動物園のあり方とか、中のレイアウトとか、もしかしたら自分の家の動物を連れてきてもいいのだよとか、子どもが少なくなってきたからこそ、そこにチャンスが多いような、そういう場所であってもいいのかなと思っています。

○原田委員長 ありがとうございます。

自分の家というのは非常にいいアイデアだと思います。犬とか猫以外にも、不思議な鳥を飼っていたり、ヘビを飼っていたり、とても近づけないようなものを飼っている人が今は結構ふえているのです。半分もてあまし気味なのだけれども、かわいくてという言葉が最後に出てくるという不思議な飼い方が今はあると思うのです。やはり、これも自然と人間、あるいは生き物と人間とのかかわりをどういうふうにしていけばいいのかということ、それぞれ飼っている人は飼っている人なりに考えているし、何でそんなものを飼っているのだろうというふうに、飼っていない人にとってはとても不思議な関係だなというふうに見ている人も多いと思うのです。

これは、やはり体験をしないと、どうにもしようがないというところもありますので、そういう体験の場として動物園を改めて活用するといった目で見るというのも、一つの新

しい方法かなというふうに思いました。

大川委員、動物園とはなじみがあるというお話をされていましたが、いかがでしょうか。

○大川委員 何度も旭山動物園の話をして恐縮なのですが、私も去年、初めて旭山動物園へお邪魔しました。小さいころはもちろん円山動物園によくお邪魔をしていたのですが、大人になってから、実は円山に限らず動物園自体に入ったことがほとんどなかったのです。それで、旭山動物園は何がいいのか実際に見てみようということでお邪魔してみますと、なるほどというふうに思った部分は確かにあります。

びっくりしたのは、そのときはたまたまかもしれないのですが、関西のシニアの方がすごく多くて、どこに行っても関西のおばちゃん、関西弁が聞こえるということにすごくびっくりしました。

今は、何かを動かそうと思ったらシニアを動かせということで、来年の2007年問題で団塊の世代の方がかなりいろいろな場面で動くのだと思いますけれども、そのシニアを動かすために円山動物園で何かできることがあるのかなということをちょっと考えました。

先ほど、パワーポイントの中の動物園の役割というところで、昔はレクリエーションといえば動物園とか映画とか選択肢がそれほどなかったのですが、今は非常に趣味が多岐にわたっています。ですから、どこに行くにも、ただ何かを見るというだけではなくて、体験ができる。例えばバターづくりができるとか、何でも参加できるというものがすごくふえていると思うのです。ですから、円山動物園も、ただ見せるだけでなく、シニアの方が自分たちも何かに参加しているということを見せられるような場所をもっと用意すると。

それから、円山動物園に来るまでの足ですね。私は、きょう来的时候は、地下鉄円山駅からちょっとずるをしてタクシーで来てしまったのですが、タクシーでは二、三分だと思えますけれども、そこに来るまでの道のりというかプロセスをもっと充実させられないかということを考えました。そこに行く手段だけではなくて、例えば道のりでスタンプラリーをすとか、歩いたら15分ぐらいだと思えますけれども、せっかくものすごく美しいところなので、そういったものを生かせるのではないかと考えていました。

○原田委員長 シニアというのは非常におもしろいご意見だなというふうに思いました。お孫さんを連れてとか、小さい子を連れてお年寄りが一緒に動物園に行く、これは結構想像できるのですが、それが関西からということになると、旭山へ行こうというモチベーションがはっきりしていて、遠くからでも来るということなわけです。

それで、動物園の近くに北海道神宮がありますね。あそこも、この間、お祭りがあったようなのですが、一番大きな神社で、そこにお参りをすると、つまり参るという祭りごとと動物園というものをつなげていくような仕組みがあってもいいのかなという感想を私は持っているのです。

いろいろな国には、いろいろな動物を祭るという習慣あるいは儀式のようなものがありまして、私はこの前、タイに行つてまいりましたが、そこはニワトリなのです。タ

イの北部なのですが、ニワトリは森の精霊というふうに言われていて、実は世界中のニワトリの原種がいまだに森の中を飛んでいたりするわけです。そう簡単に見ることはできないのですが、それでもその村々にニワトリが祭られているということがあります。

ここではどういうふうにそれを関係づければいいのかということがありますけれども、やはり隣り合っている地域でもありますし、レクリエーションということを考えると、そういう一つのルートというか、同じエリアにある神宮を動物公園に相対的にひっくるめて考えていくというのも一つあるなと思いました。

それでは、岡田委員から、マスメディアというような観点から、ご自分で考えられているイメージや、これからの円山といったあたりをお話しいただきたいと思います。

○岡田委員 旭山動物園が成功したのは、どういうふうに動物を見せるのかという理念をしっかりと持って、それを来園者にも発信していったということが勝因なのではないかなと思っています。皆さんよくご存じだと思いますけれども、行動展示といって、施設の方に視点が行きがちですけれども、実は職員さんたちの生の声が聞けるというのが一番の魅力だと私は感じています。やはり、動物のことを一番知っているのはその動物を担当している飼育係の方たちで、その生の声が聞ける機会がすごくたくさんあるのです。ワンポイントガイドとか、もぐもぐタイムといって、おやつ的なえさを動物たちに与えて、ホッキョクグマだったら水の中に泳いでいる姿が見られる。ただ、その行動を見せるだけではなくて、実際に野生下でホッキョクグマがどういう環境に置かれているのかということで、例えば地球の温暖化の影響で冬の期間が短くなってアザラシを捕らえられる期間が短くなってきているとか、人と自然とのかかわりとか、環境問題とか、そういった点にまで視線を広げてくれるのです。先ほどの話にもありましたけれども、そういう学習的な面に非常に力を入れています。

あとは、何回行ってもおもしろい動物園というのは、やはり動物は季節によって変化します。春だったらクジャクが羽を広げて求愛する姿が見られたり、夏だったらサルのベレーラッシュで非常にかわいい赤ちゃんがたくさん見られたり、そういった今の見どころをちゃんと看板なり何なりで教えてくれて、だんだん何回も行っているうちに親戚のおばちゃん的な視線になってくるのですね。例えば、去年、おとしとヒグマの繁殖に取り組んでいるのですが、一応交尾は確認されたけれども、妊娠はしませんでしたというのがあると、今年はどうかなとか、早く赤ちゃんが見たいなとか、子どもの成長を楽しみにするとか、本当に親戚の子どもの成長を見るような感じになっていくのです。新しく生まれたオランウータンのモモちゃんがいるのですけれども、モモちゃんももう一人で空中散歩できるようになったんだとか、本当に来る人を動物の味方にさせるといえるのか、そういう魅力が旭山には非常にあります。

それで、先ほど私はすごくびっくりしたのですけれども、20人の飼育員の方でこれだけの動物を見ていらっしゃるということで、本当に動物の世話だけで一日が終わってしまうのではないかと思うのですが、来園者の方とお話をするようなコミュニケーションはと

れているのでしょうか。

○大谷種の保存担当部長 うちも、旭山で言うワンポイントガイドやもぐもぐタイムというのは、今まではふれあい体験とかえさやりというふうに言っていましたがけれども、今度は、「みんなのドキドキ体験」という名前を職員みんなで考えまして、そういうときに説明しながらやっております。

飼育員はかなり忙しい思いをしていますけれども、すべての動物ではないですが、かなり多くの動物で、カバとか、サルとか、リスザルなどもお客さんに体験していただけますし、説明もしております。先ほどもおっしゃったように、やはり一番知っているのは飼育員なので、動物の生態のことや、この子はこうなんだよ、こういう生活をしているんだよということを聞くだけでも、お客さんは知らないですから、そのようなことも一生懸命やっていることは事実です。

○金澤園長 正直言います、取り組んできたのですが、目立っていなかったのです。みんな内気な人ばかりなものですから、地味にやっていたのです。けれども、最近では地味にやることは決して美德でないものですから、少し今目立つようにやろうかという取り組みをしております。

○服部委員 そういう意味では、アピールの仕方は下手ですね。

○金澤園長 はい。はいと言ったらだめですね。

○服部委員 園内のアピール性も弱いし、外部に対してのアピール性も弱い。

そんな中で、私は経営的な立場での発言が多くなるかと思えますけれども、先ほど累積赤字が90億円、年間9億円ということですがけれども、実際、先ほど岡田委員からもお話がありましたように、経営していくためには理念が必要でありますし、方針も必要です。ここの円山動物園がパークとして生きるのか、ガーデンとして生きるのか、それだけでも集客に対する持っていき方が全然違うわけです。ましてや、今見ていると、年間のパスポートも2万7,000枚程度の売上で、リピーターとしての位置づけがここにしか存在していないわけです。リピーターが少ない、あるいは新規の来園者が少ない、この辺の分析をもっとしっかりとしていかなければいけないと思います。

先ほどお話がありましたように、入園者の現状分析をしていくと同時に、売上の現状分析をしていかないと成り立たないだろう、話がつくり上げられないだろうと。

9億円の年間の赤字ということですが、歳出歳入レベルで1億5,800万円の歳入しかないとなって、これで賄っていくとなると、私ども中小企業界で言えば即、倒産ということになるわけです。これが札幌市の税金で賄っているという優遇されている部分があるのでしょうかけれども、ここの問題を分析しながら、やはり自立していく方向性を考えていかなければいけない。

経営理念の一つの考え方からいくと、よき運営、よき経営はやはり利益を上げないことには話にならないということです。市営ですから利益を上げるというわけにはいかないでしょうけれども、運営していくためにはよき経営をしていこうと。こんなふうな考え方で

歳入を——民間で言えば収入、売上ですけれども、何を売るのかということをしかりとつくり上げていかなければいけないなと思います。

この委員会も、やはり売るものをどうするかという形で少し議論して行ってほしいなというふうに思います。

また、歳出ということで、実際にかかっている経費の無駄がないか。これから私はそういう意味で一つ一つチェックさせていただきますけれども、動物のいわゆる食べ物を節約するというわけにいきませんから、ここは先ほどの動物中心の考え方をもって、より豪華なものを食べさせられるように持っていかなければいけないと思います。そのためには、どうしても売上ありきで、歳入ありきで進んでいかなければいけない。

うらやましい歳入歳出の一般会計、特別会計を見させていただきましたが、実際上は、一般会計に入っていること自体が問題であるということと言えます。

そういうことで、少しずつ議論に入らせていただきたいなと思っています。

○原田委員長 ありがとうございます。

○笠委員 先ほど私が聞いたかったのは、利用実態調査の中で、例えば市内の子どもたちが実際にどのくらい来ているのかということを知ることによって、無料では来ているのだけれども、その子どもたちに対する教育効果みたいなものを計量化すれば、それは税金で賄っても構わないと思うのです。ただ、それが何%なのかというのがわからなければ、何も説得材料がないということですから、それは変だなというふうに思ってしまうのです。そういうことも、形には見えない、収入にはならないかもしれないけれども、そういった投資効果としては絶対にあると思うので、そのあたりを把握していかないと、説明責任という面ではなかなかいかないかなと思います。

○金澤園長 そういった視点では、例えば学校が遠足や課外授業で団体として来ている部分は全部出ています。

○笠委員 ただ、うちの子どもたちもしょっちゅう来ていたのですけれども……。

○金澤園長 個別に来ている部分については、ちょっと出ていないです。

○原田委員長 それでは、何を売るかというかなり厳しいお言葉がダイレクトにありましたけれども、小学校とか中学校とか、学校の子どもたちにとってはどういう売り物であればいいのかという視点から、小学校の斉藤委員にお願いしたいと思います。

○斉藤委員 小学校では、例えば動物の絵をかくとかということで、低学年ですけれども、2年生くらいが来て、そこで絵をかいて、ちょっとお弁当を食べて帰る。もう一つは遠足ですね。遠足は遠足でも、遠いところでは6年生から1年生まで一つのグループになって、高学年がお世話をしながらこちらへ来て、自分で計画を立てて帰るということで利用しているのではないかと思うのです。ただ、そういうことをした後、また家族で行くかという、余りそういう話は聞いていないというのも現実です。ですから、空間としては非常にいいところではないかなと思っています。

ただ、子どもたちのいろいろな話を聞くと、例えばデパートとか月寒グリーンドームで

は犬とか猫のフェアをやります。私も何度か行ったことがあるのですが、本当にすごくたくさんの方がいるのです。つまり、犬とか猫が好きな人はすごくたくさんいるし、それに伴っておじいちゃん、おばあちゃんも一緒についてきているのですが、今日もそこを通ってみるとひと気が全然ないのです。やはり、動物が好きな人たちが集まれる空間をつくっていかないとだめなのではないかなという気がしてならないのです。やはり、子どもが「また行こうよ」と言って親を引っ張っていくのだらうと思うのです。

もう一つ、学校もよく言われるのは、宣伝の仕方が下手だということです。学校もずっといろいろなことをやってきているのだけれども、表にこういうことをやってきた、ああいうことをやってきたとは余り言わないのです。ところが、最近、民間校長が出てきましてから、民間校長はあれをやった、これをやったと言うのですが、実は多くの学校で大体やっていることなのです。

ですから、こちらの動物園も、シロクマが赤ちゃんを産むというときに、子どもはほとんど知りませんでした。そういうすばらしいことがあったら、テレビで宣伝してもいいから、子どものシロクマのかわいいところをうんとアピールするようなことをしていかないと、やはり届かないです。生活の断片ではないですから、やはり新しい情報としてぽんと入らないと、動物園へ行こうかという気持ちにならないだらうと思うので、そういうような宣伝をするという言葉はよくないかもしれませんが、表現をしていかないと、学校もだんだん時間がないので行くのをやめましょうというふうになってきているのが現実かなと思います。

利用の仕方としてはまだまだあるのでしょうけれども、今、お話を聞きながらそんなことを考えておりました。

○原田委員長 広報を何とかしようということですね。

中学校はいかがでしょうか。

○小林委員 無料入園組としては非常に心苦しいのですが、小学校と中学校はやはり少し違って、中学校は学習の場面が多くなるのです。それで、水族館や動物園などで裏方見学をしますと、子どもたちはとても喜びます。そういうような機会をふやしていくといいのですが、やはり時間がないものですから、班単位で十数人ぐらいの2班ぐらいで回って、それでおしまいというような状況になってしまいます。できれば、全部の生徒をそのような裏方見学させたいというふうに思いますけれども、時間的な制約、場所的な制約から、いろいろなところを見るというようなところもあって、ちょっと難しいところもあります。

裏方見学のもう一つの意味は、飼育係の仕事を知るというキャリア教育につながる部分があるのです。それで、中学校では、そのようなことで実際に飼育をしている裏の場面と飼育係の仕事、そのようなことをねらって学習することが多いと思います。

結局、いろいろな方々がお話しされていましたが、中学校もレポートするのはなかなか難しいです。2年生でそのような職業をやるとしたら、1年生ではただ回るだけで、3年生では一切触れない。そうすると、1年生でかろうじて行ったとしたら、も

っと興味があって、飼育係の仕事に集中したら2回行けるけれども、それ以上はない。こういうようなことになります。

科学館の例を挙げて申しわけないのですが、やはり科学館もリピーター不足ということで、何とかしなければならないという話題は出ていたようです。

いずれにしても、子どもたちが少なくなっているわけですから、それを何とか集めたいと思ったら、いろいろな手を使うしかないと思うのです。例えば、小学生、中学生は無料だけれども、それを連れてくるじいちゃん、ばあちゃんは有料でいいのではないかと、もっと団塊の世代をねらった取り組みが必要なのかなと思います。私が余計なことを言ってしまうかもしれませんが、そのようなことを考えていました。

以上です。

○原田委員長 ありがとうございます。

きょうは、一番最初の委員会でもありますので、それぞれがどのような視点で円山動物園のリスタートにかかわられるのかというあたりを中心に、今、ご意見をいろいろと聞いていただいているというふうにお考えいただきたいと思います。

きくち委員はいかがでしょう。

○きくち委員 私は、やはり母の立場として、まず動物園に来たときに、子どもが1歳ぐらいになって、ゾウを見て「ゾウさん」と言うようになってくると、何となくうれしくなってまた来ると思うのです。そのときに、何をさせたいかと思うと、やはり小動物にさわらせたり、何かにえさをあげられたりという経験をさせたいとか、優しさを教えたいなどというふうに思っていました。

では、動物園に来た後どうしたかといいますと、もうゾウさんは見せてしまったからということで、次によくハイジ牧場に連れていったのです。そこに行くと、馬に乗れたり、牛の乳搾りができたり、もっと具体的に子どもと動物がかかわり合えるような気がして、そういう動きをとったのです。ただ、遠くまで行かなければならなかったもので、どうして北海道の動物園として円山動物園に牛はいないのかなと、そのときはとても不思議でした。

今は、子が親を殺したり、親が子を殺したりといういろいろな社会的な問題がありますけれども、もっともっと小さいときから、自分の家庭外のところで、動物を通してですけども、親が子を守っているというようなシーンなどをもっと見せてあげられたらいいのではないかなと思いました。

それから、先ほど、今日の見どころを知らせるところが少ないというお話がありましたけれども、実は私たちはYOSAKOIソーラン祭りにも参加していて、ホストチームということで、札幌のチームは警備の仕事なども当日するのです。そのときに言われることは、とにかくごみ拾いをする人も、警備をしている人も、同じ祭りをつくり上げているエンターテイナーとして活動してくださいということを言われるのです。となると、結びつくのはディズニーランドなのです。あそこは、掃除のお兄さんもお姉さんも、おばちゃんもおじちゃんも、お客様を受け入れ迎えてくれる体制がとてもエンターテインメントだな

と感じるのです。ですから、もしできましたら、おととい行った上野動物園さんは、中の人たちは派手なアロハみたいなのを着ていたと思うのですが、そういうところから職員さんではなくて近い人というイメージがあったので、そういったところも変えた方がいいような気がしました。

それから、先ほどの60歳以上の方からも有料にした方がいいのではないかということについては、私もそう思います。100円でもいいので取った方がいいのではないかなと思いました。

それから、やはり、家族で来るためには、お父さんが来たいと思うような動物園がいいと思うのです。お父さんは、動物園かというふうになんとなく反対しそうな気がするので、お父さんが来たくするような動物園がいいと思います。

以上です。

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、原委員、お願いします。

○原委員 多分、この中では、動物園の中の出来事や状況が一番わかっている一人なのかなと思っております。

確かに、言いたいことはたくさんあるのですが、例えば、小学校の先生と中学校の先生からお話がありましたが、ボランティアとしての立場で動物園にいますと、小学生や保育園の方々たくさん見えます。最近はずっと入園者の数が多く感じられますが、先生方の方は、時間に追われて引き連れているという印象を常に持っています。何のために動物園に来たのかなと感じることがあります。

中学生は最近、おっしゃったとおり、学習の場ということで、いろいろな問題を持って何かを探すとか、キーパーさんたちと一緒に裏方を見ることによって興味を持っているという様子がうかがえますし、こちらのボランティア側の方で声をかける場合も、とてもよく話を聞いてくれます。そういう面では、話しやすく、ボランティアとしても楽しい状況ができています。

ただ、小学生や保育園に関しましては、これは先生方の意識がもう少し違うという面で、例えばもっとピントを絞って見にこられたら、もう少し楽に見られるのではないかと、動物を知っていただけるのではないかと、ちょっと生意気なようですが、そう感じることもありました。

それから、こちらの方に通うことがよくありますので、地下鉄をおりて公園内を散歩してから来るのですが、私は、動物が好きで、独身のころからこちらの動物園に通っていました。その後、結婚してからも主人と通うことがあって、私は子どもがいないのですが、いろいろな動物を何度も何度も見たいという気持ちで通っていたのは、どなたもおっしゃっていたかと思うのですが、そのときそのときの動物の表情や魅力を知りたくてくるが多かったのです。

それから、動物園に来る途中に、ここを歩いていますと、エゾリスなどに今でもちよく

ちよくあうことがありますして、車が通っている道を横断している姿もよく見ます。そのほかにも、冬になりますと、野ウサギが園内を走って回ったり、足跡を見つけることがあります。そういうものを見つけたときに、きっと動物たちがこんなふう動いているのだろうという想像ができて、とても楽しいのです。そういうようなこと環境づくりというものをもう一度見てもらえたら、それを生かせたらなという気持ちがあります。

あとは、動物園に入り口から入ったときの魅力というか、印象に残るものが今は余り感じられないのです。他の動物園では、上野動物園でしたらパンダがまず迎えてくれるとか、そういう魅力的なものがまず視線に入って、興味を引くものから動くということがありますけれども、円山動物園にはそれがちょっと乏しいかなという気がします。早い時間に行きますと、テナガザルがほえる声などに迎えられて、すごく気持ちが興奮することはあるのですけれども、そんなような環境をもっと生かせたらなと思うところがあります。

また、動物園でこれだけ動物を見ていても、私は旅先ごとに動物園を探すことが多いですし、いつもオオワシを見ているにもかかわらず、冬にオオワシやオジロワシに会いたくて知床などへ行きます。なぜかというと、ここではとまっている姿しか見れませんが、自然の中で彼らはどんなふう飛んでいるのだろうか、その飛んでいる姿を北海道の大地で見ることができたらどんなにいいだろうと思うことがあります。そんなふうな動物園づくりができたら、私はうれしいなというふうには感じます。

○原田委員長 ありがとうございます。

今、オオワシの話が出ましたけれども、芸術の森の大学の近くの喫茶店に、オオワシが大好きでオオワシに会いに行きますという人がいました。この前、親を連れていきましたということで、もう家族で動物園の動物とかかわり合いを持っていまして、それをある意味ですごく楽しいこととして人にも語って聞かせるのですね。これはとてもいいことだなと私は思いました。

私の考えでは、動物園のすべての動物にサポーター制度というか、あるいは、お姉ちゃんになってもらう、お兄ちゃんになってもらう、それから親になってもらう、おじいちゃんになってもらうというように、それぞれ人間の関係を家系みたいにつけていくと。あなたはこの動物のお姉ちゃんよというように、最後に必ずどれが気に入ったのかを聞いてあげて、そのワッペンをつけて帰すというようリピーターのつくり方というのがあるのではないかなという気はするのです。それで、シロクマの赤ちゃんが生まれたよ、お姉ちゃん見に来てねといったような簡単なメッセージをメールで送り届けてあげる。それは親を介してという形になるかもしれませんが、動物と人間とのかかわり合いを本当にそんなふうにつけていってしまうと。動物を動物園で飼っているような意識というか、これを食べさせてあげてねというふう飼料を動物にやるのではなくて、寄附というふうな形で受け入れられるようにすると。

ですから、それぞれの動物にドナーというか、いわゆる寄附者というふうな制度をつけて、動物園に対する寄附者ではなくて、この動物に対する寄附、支援を行うような仕組み

づくりということもあるのではないかと思います。ですから、必ずしも売上ということではなくて、その動物を大事にする気持ちというものをどうやって関係として強くさせていくか、そこに資金的な流れというものもつけていくというような仕組みづくりが必要なのではないかなという気がしています。

この前、新聞で、大谷部長さんが少子化というテーマで語られている動物の子育ての話は非常に感動しました。少子化問題で動物園が参考になるよ、動物園の動物を見てごらんといったような誘いといいますか、そういう見方もあるなというふうに非常にびっくりもいたしました。子育てというのはいろいろな子育てがあるのだ、だから仕事をしているから子育てはできないというわけではないなというところへ拡大して想像していくわけです。ですから、動物園というものを通して、人間の生き方そのものや自然との接し方というものを、はっきり黒板を使って教えられるわけではないけれども、体験的に覚えていくというような世界があるような気がするのです。

私は、これからは動物園がますます人々にとって重要な拠点になっていくと思いますが、動物園というふうに囲ってしまうからちょっとまずいのかなという気もするのです。動物園で動物を見ながら、山で自然の動物を見ながら、それからまちにおいて人間同士、あるいは森といいますか、いわゆる神宮府という神の空間というおそれを抱く空間みたいなところも回って、体験的に1日で非常に不思議な人間を取り巻く環境のかかわり方に触れていけるような、そういうシナリオがあの一帯には用意されているなと思うのです。大倉山シャンツェまでを含めてしまうとちょっと距離があるかもしれませんが、極力、ゾーン、エリアを広げてあの地区を総がかりで守っていくというか、そういう地域の見方がちょっと必要なかもしれないなと私は考えているのです。

そういう意味で、先ほど非常に厳しく、何が売り物になるのかというお話もありましたけれども、これからだんだんと確信へ迫っていこうかというふうに考えております。

今回は、円山動物園が今抱えている課題について、私は、次回までに問題を整理して枠組みをつくりながら、それぞれの委員に意見もいただきながらまとめていく、枠をつくっていくというフレームづくりに入っていきたいと思っております。きょうは、それぞれのお立場から動物園、それから動物とのかかわりということについて、非常に貴重なご意見をいただいたというふうに思っています。

今日は、特に委員の方々からご意見をいただきましたが、動物園サイドのご意見をお聞きするということが余りなかったといいますか、最初にご報告をいただいたということで済ませてしまいましたけれども、今回は、具体的な抱えている課題についてもお話をいただきたいなというふうに思っています。

今日は3時半までですか。

○金澤園長 できれば、今日は園内の視察をしていただければと思います。

○原田委員長 それでは、園内視察も重要だと思いますので、今日はこういうようなところでよろしいでしょうか。

○笠委員 私は、次回は出られないので、一言だけ追加させていただきたいと思います。

先ほどお話が出ていましたが、円山公園からのアクセスの問題というのは非常に大きい問題だと私は思っております。

この動物園の図面がありますけれども、これで見ますと、円山原始林と神宮に囲まれてしまったところに、いわゆる裏参道があって、それによって、一応、原始林側にはいわゆる木道があるのですけれども、非常に場所がわかりづらくて利用されづらいのです。しかも、神宮側は神宮の駐車場がありますので、経路が非常に制約されてしまうし、非常に歩きづらい園路しかないということです。

これは、私が学生のときからの大きなゼミのテーマでして、なぜこの裏参道を歩行者天国化できないのかという問題を三十数年前に議論をしたことがあるのです。その場合に、一時はやっていたのですけれども、正門から環状通までを土・日だけでも歩行者天国化するとか、そういったことは検討した方がいいと思っていますのです。

それから、あそこは私もしょっちゅう通るのですけれども、エゾリスの事故が結構多くて、実は私もひかれたのを何匹も見ているのです。ここを30キロ、40キロ、あるいはもっとスピードを出して通る車が非常に多いので、少なくともハンプをつけて減速させるとか、もうちょっと歩行者に対する配慮、あるいは動物に対する配慮をしないことには、地下鉄から歩いてこようという人がなかなかいないのではないかという気持ちがあります。もちろん、これは動物園だけの問題ではないと思いますけれども、検討事項に入れていただきたいと思います。

もう一つは、先ほど来、駐車場の問題というのはこの事業とは別ということになっていますが、例えば土・日に高校野球があれば、それでほとんどいっぱいになってしまって、動物園に来る人は全然入れませんし、違法駐車がそのあたり一帯に出てくるとというのが常態化してしまっている現状にあります。これも動物園だけでは解決できないわけですが、球場なり競技場なりと一体的に——どうしても今は車で来る人のことを考えなければならぬのであれば、なぜ球場の改修なりのときに駐車場のことを検討できないのか、そういうことは考えざるを得ないのではないかと思います。車で来る人、あるいは公共交通機関で来る人の利便というものをもうちょっと一体的に考えなければいけないと思います。なかなか来にくい雰囲気があると以前から思っていたものですから、その点を指摘させていただきます。

○原田委員長 この公園全体に対するアクセス、特に道路の問題と駐車の問題はどうしても避けて通れない課題であると私も思います。

ほかに、これだけはどういうご意見はございますか。

どうぞ。

○小宮委員 せっかく遠くから来たので、もう一つ言わせていただきます。

アクセスの問題とか、学校との関係とかいろいろありますけれども、これは旭山を例に出すのが一番早いのですが、旭山もアクセスが相当悪いのです。やはり、園そのものの魅

力が出てくるというのが本質だと思います。大都市の動物園は非常に個性を出しにくいところがあります。つまり、北海道だったら、今はいろいろありますけれども、かつては円山しかありませんでした。どういうことかということ、今日も回ったのですけれども、昆虫館もあるし、爬虫類館もあるし、みんなそろっているというのは北海道でここだけだと思いますが、逆に言うと、今は飛行機であちこち見て回れるようになりましたので、実はちょっと個人的ではないなというのがばれてしまうわけです。

そういう意味では、ここにしかないものといいますか、やはり個性を出さなければいけないと思います。ただし、それは、よそから聞いてではなくて、この中で積み重ねてできるものであって、コピーをしたらだめなのです。コピーをしたら、入れ物はできるけれども、結局中身はできないのです。ですから、僕は今日見まして、園の職員が結構おもしろいことをやっているところがあると思ったので、そういうところから円山にしかない個性を出すのが一番早道かなと思います。

○原田委員長 ありがとうございます。

動物のことを隅々まで見て、同じ種類の動物であっても、この動物にはこういうくせがある、この動物にはこういう性質があるということをご存じなのは、本当に職員しかいないだろうと私も思いますし、それを聞くのがまた楽しいという世界でもあるのです。だから、これは何々という動物ですというのは書いてあるものを見ればわかるけれども、見ただけではわからない世界をやはり宝にして、この円山動物園をリスタートしていくということが基本ではないか、根本的なところではないかというふうに私は思っています。

この前、冬に昆虫館に行ったのですけれども、冬だから、みんな冬ごもりしていたり、卵であったり、さなぎで越冬していたり、何も動いていないのです。私が見つけたのは、さわると、ころっと玉になってしまうダンゴ虫ですね。あれを拡大してムービーに撮って帰りました。つまり、撮るものがないわけです。うごめいていたのはそれしかなかったのです。でも、冬にあいているわけですから、そこへ見に来た子どもたちは、いないじゃないかとがっかりして帰ってしまうのではないかと思うのです。そういう場合に、あそこで一体何を見せるべきなのかということは考えておかなければいけないと私は思うのです。例えば、土の中はどうなっているのかといった見せ方はあるのかもしれないなという感想を持ちながら帰りました。

そういう話を延々続けていると終わりませんので、次回に譲りたいと思います。

今回は、お手元に大まかなスケジュールが載った資料があったように思いますが……。

○金澤園長 次回は7月25日です。

○原田委員長 ここに書いてありますのは、課題群の設定、課題の抽出、それから改善策の検討ということですが、これでよろしいですね。

○金澤園長 はい。

○原田委員長 委員会のスケジュールはこのようになっておりますので、このようなことで、いろいろ思いつくこと、あるいはこういうデータがあるよといったものをご提示いた

できればと思います。

その後、市民アンケート等を予定をしているということですね。

○金沢園長　そうです。

○原田委員長　定量的なデータについては、このようなアンケート等をこの後に行っていて裏打ちをしていこうということでございます。次回は、このようなことでご発言をいただきたいと思います。

それでは、事務局の方へお返しします。

5. 閉　　会

○金澤園長　どうもありがとうございました。

この後、ご都合の悪い方はやむを得ないと思いますが、園内の視察を1時間程度ご用意しておりますので、よろしく願いいたします。飼育課長の渡邊の方がご案内をさせていただきたいと思います。

次回の予定は、7月25日の1時半からとなっております。場所につきましては、後日、連絡させていただきたいと思っています。

その後の3回目、4回目、5回目も日にちだけを事前に調整させていただいておりますので、ぜひこの日でお願いしたいと思っています。

きょうは1回目ということで、厳しい意見も、それから温情のある意見もいただきました。何とか会議録を早目に整理いたしまして、次回までには何とかお出しできるように私ども事務局も頑張りたいと思っていますので、よろしく願いしたいと思います。

本日は、どうもありがとうございました。

以　　上